



# **FUJITSU Software ServerView Suite**

## **ServerView RAID Manager**

### **補足情報**

2020/07

007-031 版

---

## 目次

■	はじめに.....	1
■	対象バージョン.....	1
■	補足情報 .....	1
1	インストール.....	1
1.1	インストールパッケージ .....	1
1.2	SVRM V4.2.08 以前の版からバージョンアップ .....	1
1.3	インストール後の WEB ブラウザのキャッシュクリア / Java キャッシュクリア.....	1
1.4	Red Hat Enterprise Linux 6.9、7.4、7.5 を使用する場合に必要な設定 .....	2
1.5	V6.4.14 以前から V6.5.5 以降へのアップグレード .....	2
1.6	現在インストールしているバージョンよりも、前のバージョンの SVRM をインストールする場合に必要な手順 .....	3
2	環境.....	4
2.1	他の ServerView 製品と依存関係 .....	4
2.2	SVRM と ServerView Operations Manager を使用する場合 .....	4
2.3	SVRM V5.7.3 以降に対応する PrimeCollect .....	4
2.4	VMware ESXi 4.1 環境での監視対象 RAID コントローラ .....	4
2.5	セキュリティ証明書.....	4
2.6	Red Hat Enterprise Linux 6 環境での JRE .....	4
2.7	Firefox ブラウザのサポートバージョン .....	4
3	運用.....	5
3.1	クライアント端末から二重監視 .....	5
3.2	アクセス制限用グループ .....	5
3.3	VMware ESXi 環境での RAID 監視における SNMP Trap .....	5
3.4	MX130 S1 のリビルド .....	5
3.5	MDC、パトロールリード、リキャリブレーションの推奨値 .....	5
3.6	SVRM が出力するイベントのヘッダー .....	5
3.7	SVRM のプロセス(amDaemon)数 .....	6
3.8	ポート番号を 3173 から変更した場合 .....	6
3.9	サーバのホスト名を変更する場合 .....	6
3.10	サーバのホスト名の名前解決 .....	6
3.11	ServerView RAID Manager V6.4.14 における ESXi サーバの最大登録数 .....	6
3.12	SVRM サービスの再起動 .....	6
3.13	イベント再収集の設定 .....	7
3.14	MDC とパトロールリードは同時に実行不可 .....	7
3.15	Windows Server における Virtual Disk Service メッセージの抑止 .....	7
4	トラブルシューティング .....	8

---

---

4.1	SVRM の画面が開かない .....	8
4.2	GUI 表示時に「エラー。クリックして詳細を確認してください」の画面が表示される .....	9
4.3	SVRM の動作が意図したとおりに動作しない .....	10
4.4	オンラインヘルプが正しく表示されない .....	12
4.5	SVRM へのログイン時の amDaemon のログ .....	13
4.6	SVRM の動作確認方法 .....	13
4.7	SEL(System Event Log)に「Major HD on SAS controller * Enclosure * Slot * prefail」が出力される .....	14
4.8	/usr/lib64 を使用する場合 .....	14

---

## ■ はじめに

本書は、ServerView RAID Manager V5.7 以降に関する以下のマニュアルの補足情報です。本書をお読みになる前に、必ず以下のマニュアルもご覧ください。

- RAID Management User Manual (manual.pdf)

## ■ 対象バージョン

本書は、以下のバージョンの ServerView RAID Manager (以下 SVRM)を対象にしています。

本書の対象バージョン : V5.7 以降

## ■ 補足情報

### 1 インストール

#### 1.1 インストールパッケージ

OS 毎に使用すべきパッケージが異なります。詳細は「PRIMERGY ServerView Suite RAID Manager User Manual」(manual.pdf)の「インストール」の項を参照してください。ただし、以下の OS の場合は、適宜読み替えてください。

- Citrix XenServer 6.0 / 6.0.2 / 6.1 / 6.2、everRun 環境をご利用の場合は、「RHEL5-32」環境に読み替えてください。
- Citrix XenServer 6.5 環境をご利用の場合は、「RHEL6-64」環境に読み替えてください。
- Citrix XenServer 7.x 環境をご利用の場合は、「RHEL7-64」環境に読み替えてください。
- Oracle Virtual Machine 環境をご利用の場合は、「RHEL5-64」環境に読み替えてください。
- Oracle Linux 6 for x86\_64 (64 bit)環境をご利用の場合は、「RHEL6-64」環境に読み替えてください。
- Oracle Linux 7 for x86\_64 (64 bit)環境をご利用の場合は、「RHEL7-64」環境に読み替えてください。

#### 1.2 SVRM V4.2.08 以前の版からバージョンアップ

これまで設定していた HDD チェックスケジューラおよびバッテリリキャリブレーションスケジューラの設定内容は、V4.3.6 以降のタスク機能には自動的に引き継がれません。

タスク機能に切り替える場合は、HDD チェックスケジューラおよびバッテリリキャリブレーションスケジューラを先にアンインストールし、タスクの作成を始めから行ってください。

#### 1.3 インストール後の WEB ブラウザのキャッシュクリア / Java キャッシュクリア

SVRMをインストール後、SVRMの画面を起動する前に必ずWEBブラウザのキャッシュデータとJavaのキャッシュデータ(一時ファイル)を消去してください。

- 
- Java のキャッシュデータ消去方法  
コントロールパネルから Java を起動して、基本タブのインターネット一時ファイルの[設定...]ボタンから実施します。
  - WEB ブラウザのキャッシュデータ消去方法(Internet Explorer 8 の場合)  
「ツール」-「インターネットオプション」-「全般」タブより、閲覧履歴の[削除]ボタンから実施します。

## 1.4 Red Hat Enterprise Linux 6.9、7.4、7.5 を使用する場合に必要な設定

Red Hat Enterprise Linux 6.9、7.4、7.5 には、Firefox52 Extended Support Release(ESR)が同梱されており、Java プラグインをサポートしています。ServerView RAID Manager の GUI を利用するには以下の設定を実施してください。

### (1) Oracle Java Runtime Environment(JRE)のインストール

Red Hat Enterprise Linux 6.9、7.4、7.5 に同梱されている Firefox52 ESR は 64bit バージョンのため、JRE も 64bit バージョンをインストールしてください。

[パッケージが既にインストールされているかどうかの確認方法]

以下のコマンドで確認できます。

```
# rpm -qa | grep jre
```

インストール済みの場合、以下のようない表示が出力されます。

```
jre<バージョン>-fcs.x86_64
```

パッケージがインストールされていない場合、ServerView Suite DVD2 から以下の手順で JRE パッケージをインストールできます。

- ServerView Suite DVD2 をドライブに挿入します。
- 端末を起動します。
- 以下のコマンドで対象のディレクトリに移動します。

```
# rpm -ivh jre-<バージョン>-linux-x64.rpm
```

### (2) Java プラグインの設定

- Firefox ブラウザを閉じます。
- 以下のコマンドを実行し、Java プラグインの Firefox plugins ディレクトリへのシンボリックリンクを作成します。

```
# cd /usr/lib/mozilla/plugins/  
# ln -s /usr/java/jre<バージョン>/lib/amd64/libnpjp2.so
```

- 以下の手順で、Java プラグインが有効になっていることを確認します。
  - Firefox ブラウザを起動します。
  - ロケーション・バーに about:plugins と入力して、Java プラグインがロードされていることを確認します。

## 1.5 V6.4.14 以前から V6.5.5 以降へのアップグレード

---

---

SVRM for Windows を V6.4.14 以前の版数から V6.5.5 以降にアップデートインストールすると、自動では起動できなくなります。一度 V6.5.1 にアップグレードしてから V6.5.5 以降にアップデートするか、SVRM をアンインストールしてから V6.5.5 以降をインストールしてください。

ただし、一度アンインストールした場合は、以下の設定は引き継がれません。再度設定してください。

- ユーザー管理設定(OS 認証を使用する場合の管理者/ユーザーグループ設定)
- マルチプレクサ設定(ServerView RAID のポーリング設定)
- E-mail ログ設定
- ファイルログ設定
- システムログ設定
- LSI プラグインに関する設定

## 1.6 現在インストールしているバージョンよりも、前のバージョンの SVRM をインストールする場合に必要な手順

SVRM は上書きダウングレードをサポートしておりません。以前のバージョンをインストールする場合は、アンインストールしてから再インストールを実施する必要があります。

SVRM for Windows を V6 以降の版数をインストールした環境に、V5 以前の版数をインストールする場合、追加で以下の手順が必要となります。

この場合、設定は引き継がれません。再度設定してください。

- (1) インストールされている V6 以降の SVRM をアンインストールします。
- (2) 次のフォルダを削除します。

C:\¥Program Files¥Fujitsu¥ServerView Suite¥RAID Manager¥bin¥

※インストールフォルダを変更している場合は、変更したフォルダに読み替えてください。

- (3) 使用する V5 以前の SVRM をインストールします。

※ ダウングレードで問題が発生した場合、以下の手順を実施してください。この場合、設定は引き継がれませんので、再度設定してください。

Server View RAID Manager for Windows の場合:

- (1) インストールされている SVRM をアンインストールします。
- (2) 次のフォルダを削除します。

C:\¥Program Files¥Fujitsu¥ServerView Suite¥RAID Manager¥

※インストールフォルダを変更している場合は、変更したフォルダに読み替えてください。

- (3) 使用する SVRM をインストールします。

Server View RAID Manager for Linux の場合:

- (1) インストールされている SVRM をアンインストールします。
- (2) 次のディレクトリを削除します。

---

/opt/fujitsu/ServerViewSuite/RAIDManager

- (3) 使用する SVRM をインストールします。

## 2 環境

### 2.1 他の ServerView 製品と依存関係

SVRM は他の ServerView 製品と依存関係はありません。

### 2.2 SVRM と ServerView Operations Manager を使用する場合

SVRM と ServerView Operations Manager を使用する場合は、SVRM に含まれる mib ファイルを ServerView Operations Manager に登録してください。登録しない場合、一部のトラップが「不明なトラップ」になる可能性があります。

### 2.3 SVRM V5.7.3 以降に対応する PrimeCollect

Windows 環境上で、SVRM V5.7.3 以降において PrimeCollect で資料を採取するには、ServerView Agent V6.20.03 以降に含まれる PrimeCollect が必要です。ServerView Agents V6.20.03 以降をインストールしてご利用頂くか、または ServerView Suite DVD V11.13.08 以降から PrimeCollect.exe をコピーしてご利用下さい。

### 2.4 VMware ESXi 4.1 環境での監視対象 RAID コントローラ

次の SAS コントローラ/SAS アレイコントローラの監視は、VMware ESXi 4.1 update 1 からサポートしています。VMware ESXi 4.1 (update 無し) では未サポートとなっておりますのでご注意ください。

- PRIMERGY オンボードアレイコントローラ (Integrated Mirroring SAS)
- PRIMERGY 標準搭載 SAS アレイコントローラカード (Integrated Mirroring SAS)
- SAS コントローラカード PG-254B/PGB254B (Integrated Mirroring SAS)
- SAS カード PG-228B / PGB228B / PG-228BL / PGB228BL (LSI SAS 3442E-R (1068E))

### 2.5 セキュリティ証明書

SVRM が使用するセキュリティ証明書の暗号強度が上がったため、画面を表示する側の OS および Web ブラウザについても対応が必要になります。

Windows XP、Windows Server 2003 上で SVRM (GUI) を起動する場合は、hotfix KB968730 を適用してください。

<http://support.microsoft.com/kb/968730/>

### 2.6 Red Hat Enterprise Linux 6 環境での JRE

Red Hat Enterprise Linux6 上のブラウザを使用する場合は、JRE1.6.0\_u30 以降をご使用ください。

### 2.7 Firefox ブラウザのサポートバージョン

---

Firefox 52 以上は、Java プラグインをサポートしません。SVRM の GUI から設定を行なう場合は、サポートしている他のブラウザを利用するか、Firefox をダウングレードしてください。

なお、Red Hat Enterprise Linux 6.9、7.4、7.5 には、Firefox52 Extended Support Release(ESR)が同梱されており、このブラウザは Java プラグインをサポートしています。このブラウザで SVRM の GUI を使用するには、[「1.4 Red Hat Enterprise Linux 6.9、7.4、7.5 を使用する場合に必要な設定」](#)を参照して下さい。

## 3 運用

### 3.1 クライアント端末から二重監視

1 つのクライアント端末から 2 つ以上の SVRM(GUI)を起動して同一サーバを監視することはできません(正常に動作いたしません)のでご注意ください。

### 3.2 アクセス制限用グループ

アクセス制限を行うための「raid-adm」グループおよび「raid/usr」グループは自動で作成されません。アクセス制限を行う場合には、必要に応じてグループを作成してください。

### 3.3 VMware ESXi 環境での RAID 監視における SNMP Trap

VMware ESXi サーバを監視する場合、SVRM が発行する SNMP Trap は ESXi サーバを監視するサーバ(SVRM をインストールしたサーバ)が Trap の発行元となりますのでご注意ください。

### 3.4 MX130 S1 のリビルド

MX130 S1 でリビルドを実行する場合、リビルドするハードディスクをホットスペアに設定する必要があります。

ホットスペアに設定する方法:

リビルドするハードディスクを選択後右クリック - [ホットスペアの管理] - [作成]

オートリビルドが有効の場合、操作直後に自動でリビルドが開始されます。

オートリビルドが無効の場合、ロジカルドライブを右クリックし[リビルドの開始]を選択することでリビルドが開始されます。

### 3.5 MDC、パトロールリード、リキャリブレーションの推奨値

MDC、パトロールリード、リキャリブレーションの実行間隔については、各アレイコントローラのマニュアルに推奨値があればそれに従ってください。

### 3.6 SVRM が出力するイベントのヘッダー

SVRM が出力するメッセージは、先頭が「amDaemon:」または「ServerView RAID:」のどちらか一方を付加する形式です。

### 3.7 SVRM のプロセス(amDaemon)数

SVRM の正常稼働時のプロセス(amDaemon)数は、OS 環境および RAID カードにより異なります(1～3)。「ps -ef | grep amDaemon」または「/etc/init.d/aurad status」でプロセス数を確認してください。

### 3.8 ポート番号を 3173 から変更した場合

SVRM のポート番号を 3173 から変更した場合、ServerView Agents との連携ができません。また、SVRM サービスが定期的に再起動されます。

### 3.9 サーバのホスト名を変更する場合

サーバのホスト名を変更する場合、オブジェクトをホスト名で登録しているタスク(MDC など)を削除してから再作成してください。

### 3.10 サーバのホスト名の名前解決

ホスト名が解決されるようにネットワーク環境を設定してください。名前解決ができない場合は、SVRM サービスが正常に起動しない場合があります。

例： SVRM が起動せず、以下のメッセージが記録されます。

```
Waiting until ServerView-RAID service is listening on port #3173 0 giving up after 30 seconds  
ServerView-RAID service is not listening. Continue anyway.
```

現象が発生する場合は「/etc/hosts」ファイルに設定を追記してください。

例：  
**192.168.0.1 Hostname ★この行のように追記**  
127.0.0.1 localhost localhost.localdomain localhost4 localhost4.localdomain4  
::1 localhost localhost.localdomain localhost6 localhost6.localdomain6

### 3.11 ServerView RAID Manager V6.4.14 における ESXi サーバーの最大登録数

ServerView RAID Manager V6.4.14 で ESXi ホストサーバを登録できる数は、最大 20 台です。一度に多数登録すると動作が不安定になることがあります。登録する際には以下の点に注意してください。

- ServerView RAID Manager と監視対象の ESXi サーバは同一サブネットワーク内にする。
- 監視対象の ESXi サーバを登録する場合は 5 台程度に留める。
- 登録したシステムを検出するまで 15 分程度待つ。
- 検出された後、ESXi サーバを追加登録する場合は 10 分程度の時間を空ける。

### 3.12 SVRM サービスの再起動

SVRM サービスの再起動を行うには、以下の手順を実施して下さい。

- Windows の場合  
「ServerView RAID Manager」サービスを再起動します。
- RedHat Enterprise Linux 6 以前, Oracle Linux 6 以前, SUSE Linux Enterprise Server

- 
11. VMware ESX、Citrix Xen Server 6.5 以前、everRun MX の場合  
「# /etc/rc.d/init.d/aurad restart」コマンドを実行します。
- RedHat Enterprise Linux 7、Oracle Linux 7、SUSE Linux Enterprise Server 12、Citrix Xen Server 7 の場合  
「# systemctl restart svraid」コマンドを実行します。

### 3.13 イベント再収集の設定

SVRM V6.6.10 以降では、VMware ESXi サーバを監視する環境においてネットワークの障害などによる一時的な監視不能状態から復帰した際に、その間のイベントを収集して補完する機能を備えています。監視不能の期間が長い場合を想定して、一定時間以上過去のイベントを無効にするように設定できます。

環境ファイル `piLSIStoreLibCIM.ini` をテキストエディタで更新してください。

ファイルパス

Windows : C:\Program Files\Fujitsu\ServerView Suite\RAID Manager\bin  
Linux : /opt/fujitsu/ServerViewSuite/RAIDManager/bin

※インストールフォルダを変更している場合は、変更したフォルダに読み替えてください。

設定

```
EventLifespanFilterEnabled = True
ActualEventLifespanHours = 72 (現在から残す時間範囲を指定します)
:
SeverityFilter = error
```

### 3.14 MDC とパトロールリードは同時に実行不可

MDC とパトロールリードは、どちらも RAID 構成の整合性のチェックと修復を行う機能です。これらの機能は同時に実行させることはできません。どちらか一方を実行するように設定する、または同時刻に実行しないようにスケジュールを設定してください。

### 3.15 Windows Server における Virtual Disk Service メッセージの抑止

Windows Server 上で ServerView RAID Manager V6.4.3～V6.6.10 を動作させる場合、Virtual Disk Service (VDS)の開始、停止を示すメッセージがイベントログに記録されます。このメッセージは異常ではありません。ServerView RAID Manager が AHCI ステータス問合せのため VDS にアクセスすることによるものであり、「AHCI-Plugin」のポーリング間隔で設定されている間隔毎に出力されます。

この問題は ServerView RAID Manager V6.6.11 で修正されています。

基本的には、ストレージを RAID 構成で使用する場合は AHCI ステータス監視を停止しても問題ありません。

---

イベントログへの出力を抑止する場合は、以下の手順で AHCI 監視を停止してください。

設定ファイル:

C:\Program Files\Fujitsu\ServerView Suite\RAID Manager\bin\amMPX.ini

手順:

1. 「管理ツール」—「サービス」でサービス画面を表示します。
2. ServerView RAID Manager を選択し、右クリックしコンテキストメニューから「停止」を選択します。
3. 上記の設定ファイルをテキストエディタで編集します。  
編集前 : Library = piAHCI, enabled  
編集後 : Library = piAHCI, disabled
4. 手順 2 と同様に、ServerView RAID Manager のコンテキストメニューから「開始」を選択します。

ServerView Agents もインストールしている環境では、ServerView RAID Manager の再起動とともに「Restart Agents」ツールを使用して ServerView Agents も再起動してください。

設定変更後の ServerView RAID Manager 起動時には下記のメッセージ(エラー)が発生しますが、AHCI 監視無効化の成功を示すものですので対処は不要です。

Adapter missing after reboot

## 4 トラブルシューティング

### 4.1 SVRM の画面が開かない

- キャッシュの削除

Web ブラウザや、JRE の一時ファイル(キャッシュ)に不要なデータが格納されている可能性があります。以下の一時ファイルを削除してください。

- Web ブラウザの一時ファイル

Internet Explorer の場合

[ツール]—[インターネットオプション]を起動し、「全般」タブの「閲覧の履歴」枠で「削除」を開き、インターネット一時ファイルの削除を行ってください。

FireFox の場合

[ツール]—[オプション]を起動し、「詳細」を選択、「ネットワーク」タブの「キャッシュされた Web ページ」項目にある「今すぐ消去」を実行してください。

- JRE のインターネット一時ファイル

Java コントロールパネルを起動し、インターネット一時ファイルの「設定」より「ファイルの削除」を行ってください。

- Java のセキュリティ設定

Java 7 U25 (7u25) 以降のバージョンをお使いの場合、Java Applet (ServerView Operations Manager、SVRM など) の画面が正しく表示されないことがあります。以下の対処

---

を行うことで Java Applet を実行することができます。以下のいずれかの対処を行ってください。

➤ 対処 1

Java 7 の最新版にアップデートしてください。

なお、環境内に ServerView Operations Manager がインストールされている場合は、Java アップデートの実施前に ServerView Operations Manager の以下のサービスを記載の順番に停止してください。

- (1) ServerView Download Service
- (2) ServerView Services
- (3) ServerView JBoss Application Server 7

JRE をアップデートした後、以下の通り、停止したのと逆の順番でサービスを開始してください。

- (1) ServerView JBoss Application Server 7
- (2) ServerView Services
- (3) ServerView Download Service

➤ 対処 2

(1) Java コントロール・パネルを開きます。

(2) セキュリティタブのセキュリティ・レベルを「中」にし、「適用」をクリックします。

インターネットに接続されていない環境でお使いの場合は、掲記の対処 1、2 に加え、以下の設定も合わせて実施してください。

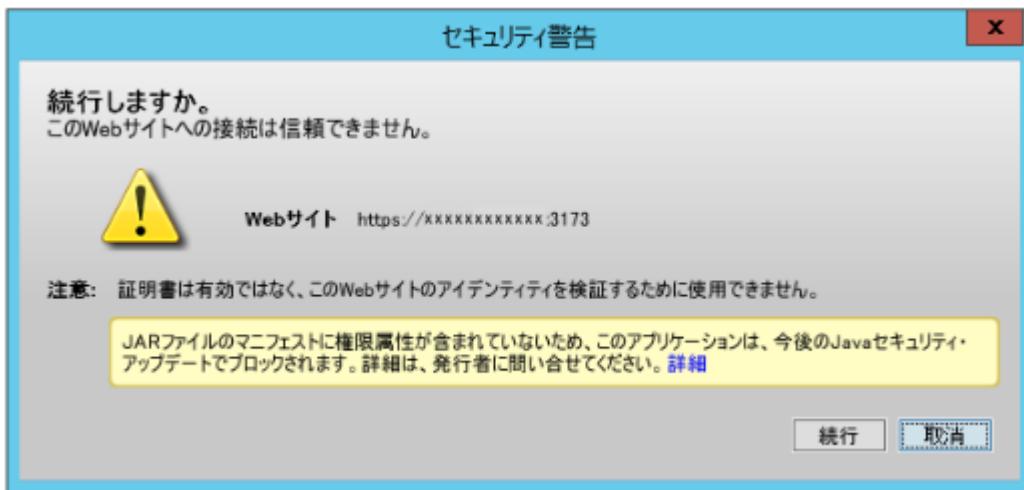
- (1) Java コントロール・パネルを開きます。
- (2) 詳細タブの「証明書失効チェックを実行」で「チェックしない(非推奨)を選択し、「OK」をクリックします。

## 4.2 GUI 表示時に「エラー。クリックして詳細を確認してください」の画面が表示される

Web ブラウザを一度閉じてから、SVRM の URL を再度入力してください。または、スタートメニューから SVRM のアイコンを再度選択してください。

「この Web サイトのセキュリティ証明書には問題があります。」の画面にて「このサイトの閲覧を続行する(推奨されません)。」のクリック操作を行う際、続けて表示される以下の「セキュリティ警告」のダイアログ画面において、速やかに「続行」を選択してください。

併せて、「PRIMERGY ServerView Suite RAID Manager User Manual」(manual.pdf)の「2.3 セキュリティ証明書」の項もご参照ください。



#### 4.3 SVRM の動作が意図したとおりに動作しない

ログイン画面が開けないなど SVRM の動作が意図したとおりに動作しない場合、以下の処置により復旧することができます。復旧を優先する場合は、下記手順を実施して適宜復旧を試みてください。

##### 【現象による場合分け】

対象 OS: 全 OS

- SVRM のログイン画面が開けない場合は、復旧手順(1)～(10)を実施してください。
- その他の不具合が SVRM で発生している場合は、復旧手順(5)～(10)を実施してください。

対象 OS: ESXi

- 登録した ESXi ホストが SVRM に表示されないなど ESXi に関係する場合は、復旧手順(11)以降を実施してください。

##### 【復旧手順】

- (1) WEB ブラウザを起動するマシンから SVRM がインストールされているサーバへの通信経路に問題がないことを確認する(ping など)。問題があれば、ネットワーク接続を確認する。  
復旧しない場合は次へ。
- (2) SVRM がインストールされているサーバについて、ポート 3173 がファイアウォールによりブロックされていないことを確認する。ブロックされていたら解放する。  
復旧しない場合は次へ。
- (3) WEB ブラウザを起動するマシンにて、SVRM がインストールされているサーバの名前解決ができるかを確認する。問題ある場合は修正するか、または IP アドレスを直接指定してアクセスする。  
例: <https://192.168.x.x:3173>  
復旧しない場合は次へ。
- (4) WEB ブラウザのキャッシュデータと Java のキャッシュデータ(一時ファイル)をクリアする。  
復旧しない場合は次へ。

- 
- (5) SVRM サービスを再起動する。  
「3.12 SVRM サービスの再起動」の手順を実施してください。  
復旧しない場合は次へ。
  - (6) SVRM が動作しているサーバ(OS)を再起動する。  
復旧しない場合は次へ。
  - (7) SVRM を最新版にアップグレードする。  
復旧しない場合は次へ。
  - (8) Java を再インストールする。  
※アンインストール後に最新版の Java をインストールすることを推奨。  
復旧しない場合は次へ。
  - (9) SVRM をアンインストールして、以下のフォルダまたはディレクトリを削除した後に最新版の SVRM をインストールする。
    - Windows の場合  
C:\Program Files\Fujitsu\ServerView Suite\RAID Manager
    - Linux の場合  
/opt/fujitsu/ServerViewSuite/RAIDManager復旧しない場合は次へ。
  - (10) SVRM が動作しているサーバ(OS)の修正パッチおよびサービスパックの最新版を適用する。  
復旧しない場合は次へ。

※ESXi ホストを監視している場合は以下も実施してください。

- (11) ESXi ホストを SVRM に再登録(ESXi ホストの削除→登録)する。  
削除方法/登録方法は、以下のインストールガイドをご参照ください。  
<http://jp.fujitsu.com/platform/server/primergy/software/vmware/manual/>
  - ServerView RAID Manager VMware vSphere ESXi 6 インストールガイド
  - ServerView RAID Manager VMware vSphere ESXi 5 インストールガイド
  - ServerView RAID Manager VMware ESXi 4 インストールガイド復旧しない場合は次へ。
- (12) ESXi ホスト側の sfcbd プロセスと、SVRM サービスを再起動する。
  - ESXi Shell から行う場合
    1. vSphere vSphere ESXi 5/6 サーバの ESXi Shell にログオンする。
    2. sfcbd を停止する。  
「# /etc/init.d/sfcbd-watchdog stop」コマンドを実行する。
    3. sfcbd の停止を確認する。  
「# /etc/init.d/sfcbd-watchdog status」コマンドを実行して、「sfcbd is not running」と出力されることを確認する。
    4. sfcbd を起動する。  
「# /etc/init.d/sfcbd-watchdog start」コマンドを実行する。

---

5. sfcbd の起動を確認する。

「# /etc/init.d/sfcbd-watchdog status」コマンドを実行して、「sfcbd is running」と出力されることを確認する。

6. SVRM サービスを再起動する。

- vSphere Client から行う場合

1. vSphere Client から vCenter Server または ESXi ホストにログインする。

2. 左側に表示されるインベントリ パネルから対象の ESXi ホストを選択し、「構成」タブ - 「ソフトウェア」 - 「セキュリティプロファイル」を選択する。

3. サービスの「プロパティ」をクリックし、サービス プロパティを開く。

4. 「CIM サーバ」を選択し、「オプション」ボタンをクリックする。

5. サービス コマンドで「停止」をクリックする。

6. サービス コマンドで「開始」をクリックする。

※「再起動」コマンドの場合、タイムアウトして失敗する場合があります。このため、「開始」をクリックしてください。

7. vSphere vSphere ESXi 5/6 サーバの ESXi Shell にログオンする。

8. sfcbd の起動を確認する。

「# /etc/init.d/sfcbd-watchdog status」コマンドを実行して、「sfcbd is running」と出力されることを確認する。

9. SVRM サービスを再起動する。

復旧しない場合は次へ。

(13) ESXi ホスト(OS)と SVRM サービスを再起動する。

以下、その手順。

1. ESXi ホスト(OS)を再起動する。

2. 「# /etc/init.d/sfcbd-watchdog status」コマンドを実行して、「sfcbd is running」と出力されることを確認する。

3. SVRM サービスを再起動する。

復旧しない場合は次へ。

(14) SVRM を最新バージョンにアップデートする。

SVRM と VMware ESXi のサポート状況を確認し、組合せをサポートしている最新バージョンを選択してください。

復旧しない場合は次へ。

(15) ESXi ホスト(OS)を最新バージョンにアップデートする。

ESXi ホスト(OS)のアップデートにより SVRM との組合せがサポートされなくなる場合は、SVRM も組合せをサポートしているバージョンにアップデートする。

#### 4.4 オンラインヘルプが正しく表示されない

オンラインヘルプが正しく表示されない場合は、WEB ブラウザのエンコード選択を「自動」に設定してください。

---

例: Internet Explorer 8 の場合

メニューバー「表示」-「エンコード」-「自動」

#### 4.5 SVRMへのログイン時の amDaemon のログ

Linux 環境にて、OS によるユーザー認証を使って SVRM の Web 画面にログインすると、次のようなメッセージが syslog に記録されます。正常にログインできている場合は問題ありませんので、本メッセージは無視してください。

amDaemon: pam\_ldap: ldap\_simple\_bind Can't contact LDAP server

回避方法として、SVRM の認証設定ファイルにて LDAP 認証を行わないように設定することで、メッセージ出力を抑止することが可能です。(V5.6.4 まで)

次の認証設定ファイルを以下のようにコメントアウトします。

~V5.4.8: /etc/pam.d/svraid

V5.5.2~V5.6.4: /opt/fujitsu/ServerViewSuite/RAIDManager/Setup/svraid\_std.pam

[ 変更前 ]

```
 #%PAM-1.0
auth sufficient pam_ldap.so
auth required pam_unix.so
account sufficient pam_ldap.so
account required pam_unix.so
```



[ 変更後 ]

```
 #%PAM-1.0
#auth sufficient pam_ldap.so ★コメントアウト
#auth required pam_unix.so
#account sufficient pam_ldap.so ★コメントアウト
#account required pam_unix.so
```

#### 4.6 SVRM の動作確認方法

SVRM の動作確認は、amCLI コマンドによってコマンドラインから確認できます。

「amCLI -l」の結果が情報リストだった場合、正常に動作しています。

例: >amCLI -l

```
>21/3: System, 'RAIDManager'
> 32/1: SAS adapter, 'FTS RAID Ctrl SAS 6G 0/1 (D2607) (1)'
> 32/3: SAS Backplane
> 32/4: Disk, 'SEAGATE ST3160318AS (0)', 152096MB
> 32/5: Disk, 'SEAGATE ST3160318AS (4)', 152096MB
> 32/2: Logical drive 0, 'LogicalDrive_0', RAID-1, 152096MB
> 21/0: Multiplexer, 'ServerView RAID Manager'
> 21/4: Scheduler
> 21/10: Task, 'Write snapshot'
> 21/5: E-mail log
> 21/1: File log
```

- 
- ```
> 21/2: System log
> 32/0: Plugin, 'LSIStoreLib-Plugin'
```

「amCLI -l」の結果が情報リスト以外だった場合、問題が発生している可能性があります。サービス再起動または OS 再起動を実施してください。

例: >amCLI -l  
> Communication with Core Service failed.

[問題が発生している可能性がある場合のメッセージ]

- Communication with Core Service failed.
- Database failed.
- Database not yet initialized.

注) サービス起動直後は"Database not yet initialized."になる場合があります。時間を置いてから実行してください。

#### 4.7 SEL(System Event Log)に「Major HD on SAS controller \* Enclosure \* Slot \* prefail」が outputされる

SAS カード接続の ETERNUS が監視対象になっている場合、次のメッセージが SEL に出力されます。

Major HD on SAS controller \* Enclosure \* Slot \* prefail

SAS カード接続の ETERNUS は監視対象ではありませんので、このメッセージは無視してください。または、該当の装置を監視対象から外してください。

#### 4.8 /usr/lib64 を使用する場合

Linux 環境において、LD\_LIBRARY\_PATH に /usr/lib64 を設定すると amCLI コマンドが次のようにエラーとなります。

```
# export LD_LIBRARY_PATH=/usr/lib64
# amCLI -l
/opt/fujitsu/ServerViewSuite/RAIDManager/bin/amCLI:
/usr/lib64/libstdc++.so.6: version `CXXABI_1.3.8' not found (required by
/opt/fujitsu/ServerViewSuite/RAIDManager/bin/libicuuc.so.57)
```

SVRM は 32bit ライブラリ /usr/lib/libstdc++.so.6 を使用して動作します。しかし前述のように /usr/lib64 を設定しますと、64bit ライブラリ /usr/lib64/libstdc++.so.6 が使用されることによりエラーとなります。

/usr/lib64 を使用する場合は、次のように 64bit ライブラリサーチパス LD\_LIBRARY\_PATH\_64 に設定してください。

```
# export LD_LIBRARY_PATH_64=/usr/lib64
# amCLI -l
```

---

以上